

「バブル崩壊後の財政金融システムの変化とそれをめぐる政策論争の分析」
Analysis on Changes of Fiscal and Financial Systems and Policy Debates on Them

プロジェクト代表者：伊藤 修（経済学部・教授）

Osamu Ito: Professor, Faculty of Economics

1. 研究テーマ

申請時に次のように記した。

- ① 近代経済発展の初発から高度成長までの軌跡のサーベイを、偏りのない国際比較を交えてやり直す。
- ② 1970年代、1980年代（バブル発生期を含む）、1990年代から2000年代末現在まで（バブル崩壊以降）、の3つの時期に分け、経済史的手法により推移を記述する。
- ③ 以上をふまえ、いくつかの分野（財政と金融が中心になる）の現状をめぐる論点を掘り下げる。

——以上について取りまとめた成果を近い将来に出版する。

以上のうち①と②の部分については作業をほぼ終えている。

今年度申請テーマは、③の中心部分に当たるものである。主な論点には以下のものが含まれる。

- 日本銀行の金融政策運営の評価
- 護送船団型金融行政の変貌と現状（金融庁による「指令的」行政の評価を含む）
- 財政赤字累積の深刻度と財政再建ペースの見通しおよび税制改革
- 高齢化に対応する社会保障制度改革の抜本改革の構想

2. 研究成果

結果は、本研究費による図書資料等を活用することにより、当初の課題をほぼ完遂し、その成果を次の単著書として刊行した。

伊藤修『日本の経済——歴史・現状・論点』中央公論新社、2007年5月。

(以上)